

# サッカーグラウンド整備へ

9月下旬までに 9/1 米新

## 18,000人の署名目標

米沢スポーツ・ビレッジ推進会議

同推進会議は今年六月十八日に設立。スポーツ団体が協力し、実現に向け署名活動を展開している。当初、九月までの目標とした一万一千百十一人を早期に達成できたことから、新たに目標値を設定し、米沢まちづくり総合計画第一期実施計画に盛り込んでもらい、大きくアピールしたい考え。計画では、南米沢工業団地のジエニスから土地を借り受け、同推進会議による、整備費は照明設備などを含め、五十億円ほどになるといふ。フットサル場を併設したり、グラウンドゴルフなどできるようなしたいと考えている。

現在、市立病院わきの松川河川敷などで大会を行っているが、「東日本サッカーフェスティバルを開催するのがせいぜい

米沢市南原地区に人工芝のサッカーグラウンド三面と駐車場の整備を目指す米沢スポーツ・ビレッジ推進会議(代表=種村信次米澤信用金庫理事長)は三十一日、署名活動の中間報告を行った。それによると同日現在、一万四千五百十人からの署名が集まった。さらに九月下旬までに、米沢市の人口の約二〇%に当たる一万八千人まで署名数を増やし、安部三十郎市長に提出し実現に結び付けたいとしている。

い。雨でとろとろにぬかるんだり、安心してスライディングできない状態と佐藤政米沢地区サッカー協会長らは指摘する。

「リーグ、ワールドカップなどサッカー熱が高まっている。サッカー愛好者は米沢、南陽、高皇、川西の二市二町で、約三千人。置賜地区には、本格的なサッカー場はなく、駐車場を備え、あらゆる大会に対応した専用のサッカーグラウンド整備が関係者の課題になっている。

# 署名1万4000人を突破

米沢・人工芝サッカー場整備 実現向け「前進」

米沢市南原地区に人工芝のサッカー場三面を備「レッジ」の整備を提唱し

米沢市南原地区に人工芝のサッカー場三面を備「レッジ」の整備を提唱している推進会議(種村信次代表)はこのほど、構想実現に向け、市民など一万四千人を超える署名が集まっていることを明らかにした。

同会議は、米沢地区サッカー協会、南原地区、NPO法人夢創工房などが構想実現を目指し、今年六月に発足。市に整備を働きかける要望運動の一環として、署名活動を展開している。当初、九月末までの目標として、「イレブン」

にちなんで一万千百十一人分の署名を掲げていたが、八月末時点で目標を大幅に上回る一万四千五百十人分が集まった。このため、目標を米沢市の人口の二割に相当する一万八千人分に上方修正し、九月末まで活動を続けるとい

う。米沢市役所で記者会見した佐藤政米沢地区サッカー協会長は「二〇〇八年度からスタートする市まちづくり総合計画の第二期計画に盛り込んでもらえるよう、より多くの署名を集めて市に実現を働き掛けていく」と語った。